

特集

金融経済教育の実践例①

3-1

中学生の起業家精神を養い育てるために

— 地域人材の活用から見える経済分野における社会参画 —



小谷 勇人 Kotani Hayato 埼玉県春日部市立中野中学校社会科教諭
越谷市立中央中学校を皮切りに2015年より現職。2014年、金融広報中央委員会の第11回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール特賞受賞。



わが国の経済状況は、リーマンショック、欧州の経済危機などに端を発し大変厳しい状況に直面しています。2012年の政権交代によりアベノミクスと呼ばれる経済政策から立ち直り始めたようにみえますが、実感としてはまだまだという状況です。このようななか、21世紀の日本をたくましくリードするチャレンジ精神旺盛な人材を育てることが求められています。その答えとして、中学校社会科の公民的分野において「起業家教育」を授業に取り入れることを考えました。本稿では、2014年11月に前任校である春日部市立豊春中学校で行った「中学生に起業を体験させる」授業の実践例を紹介します。

「起業家教育」の必要性

知識基盤社会化やグローバル化が進む時代に、世界や日本に関する基礎的教養を培い、国際社会を主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を生徒にどのように育成させるかが大切です。現在の世界全体が大きくなっている流れのなか、わが国では今後、安価な普及品の生産のために工場での大量生産に従事する労働者としての資質を重視するより、消費者の需要を掘り起こし特色のある商品やサービスを新たに作り出して販売しようとする起業家的資質が求められています。

なお、現在の教育課程のなかで、社会科で生徒に起業家的資質を育成するためには、当面次のことが必要であると三重大学教育学部の山根

栄次教授は紹介しています*。

社会科における経済学習では、生徒が経済に関する理解を深め、経済思考力・経済的な見方・考え方を身に付け、学業の終了後、経済活動に積極的に参加しようとする起業的資質を獲得するために起業家教育的な発想での授業が推進されるべきである。

今回の実践例はこの考えを受け、学習指導要領に準じた学習とともに、『中学校から会社をつくらう』の自作資料を使用した計18時間の“起業する授業”となっています。なお、「起業を体験する学習」を通して、生徒たちが社会に出る際の心構えを養うこともできると考えています。

授業実践は図1の流れで順序立てて、行いました。なお、授業は図2のような問いによって構成されています。

「地域社会」で活躍する機関との連携

自分が住む郷土にはその地域ならではの起業家たちがいるものです。春日部市も例外ではなく、この地域で起業をして大きな成功を収めている会社もあります。また、地元の共栄大学では大学生が起業している「かいしゃごっこ」という会社もあります。今回の取り組みは、主に「かいしゃごっこ」に協力してもらいモノづくりや会社のしくみについてのサポートを受けまし

* 『社会科と総合的な学習の時間における起業家教育の意義と方法』（2003年 三重大学教育学部研究紀要 10ページ）

た。ほかにも市内で起業している方に講演をしてもらうなど、地域のさまざまな先駆者から中学生の起業に対してサポートを受ける流れを組み、実践をしていきました。

社会参画の視点をもった取り組みは「地域社会」との関わりによって生まれるものと考えています。

成果について

本実践の成果は、経済のしくみに関する関心や意欲を大いに刺激したことです。普段の授業での基本的な知識や技能を土台に、さらに起業する実体験を積み重ねたことで、経済への興味・関心を確固たるものにできたと考えています。

なお、この活動では実物販売会において利益を出すためには、授業中だけでは大きな効果は出てこないと生徒たちが自然に気づく展開が生まれました。具体的には、授業が進むなかで消費者の購入までの思考や行動を分析したり、「流通のしくみ」を学んだ後は、仕入れを工夫するなどの課題を自ら追究し解決していく連鎖的な学びが出てきました。毎時間、課題解決において自己の選択の場を設定し「起業を体験する学

習」に絡ませて思考・判断させることで生徒の主体的な学習をもたらしました。そのことが、学習に対しての興味・関心を大いに刺激したと考えています。教師側からの積極的な仕掛けこそが主体的な学習へ導くものです。

なかでも社長を経験した生徒の変容は特に大きく、販売会においても常に選択・判断の連続を経験したことで、経済に関する生きた知識や技能を身に着けることができました。

本校で学んだ起業家としての精神は社会に出るときに大きな力になるものです。本実践のような社会参画をめざした授業を取り組むことは、「公民的資質」の基礎を養うという社会科の究極の目標につながると考えています。

今後について

「起業家教育」は昨今、さまざまな場面で話題に上がるようになってきました。大変嬉しいことです。現在、より汎用性を求めるために、「模擬企業体験バージョン」のワークシートを作成しました。実際の企業活動は伴わず、されど学習内容は落とさないものです。多方面に披露する機会があれば幸いです。

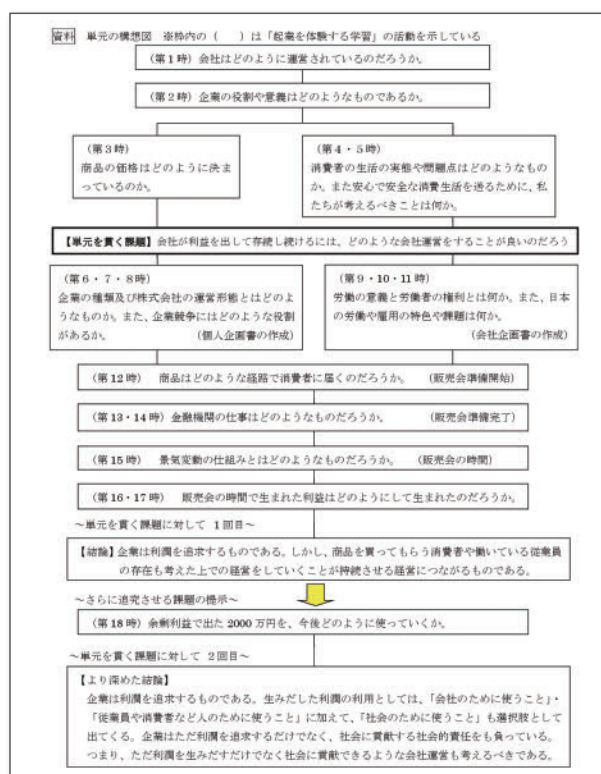


図1 「起業を体験する学習」の構想図

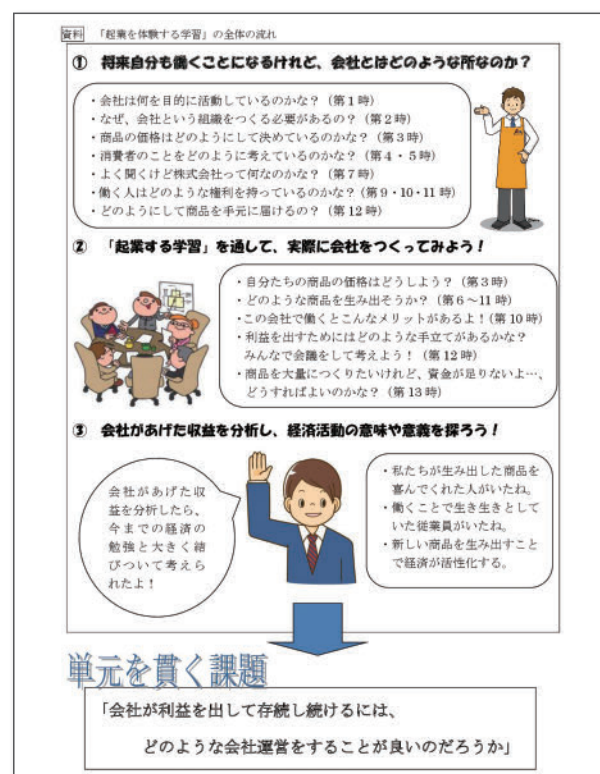


図2 「起業を体験する学習」の全体の流れ